



年頭に当たって

(一社) 日本養鶏協会 会長 米山 大介

2025年鶏卵産業の課題と展望



新年明けましておめでとうございます。

今シーズンもすでに多くのHPAIが発生しています。まずもって鳥インフルエンザに対する防疫体制の強化徹底をあらためてお願いします。

さて、2025年の幕開けはアメリカ大統領の交代とともに始まるといういいでしょう。昨年の大統領選でハリス副大統領を大差で破ってトランプ前大統領の返り咲きが決まりました。トランプ氏といえば前回バイデン氏と争った大統領選で敗北を認めず、支持者が国会議事堂に侵入するのを先導したともいわれています。様々な訴訟も抱えています。そのような人物が再び大統領選に立候補すること自体、わが国では考えられないことですが、アメリカ国民は彼を再び最高指導者に選びました。確かにコンプライアンスに問題があるが、それを補って余りある実行力がある。多少行儀は悪くても、頼りがいのある強いリーダーが欲しいといったところでしょうか。アメリカは豊かな国と思いがちですが、実は貧富の差がとてつもなく大きく、上位1%の人が国富の8割を握っているともいわれています。ぎりぎりの生活をしている国民は多く、街に窃盗が絶えず、ホームレスも沢山います。自分たちの暮らしを何とかして欲しいという人たちが、アメリカファーストを唱えるトランプ氏に期待するのでしょうか。しかし不法移民排斥、高関税などの単調な政策ばかりではかえってインフレを助長するリスクがあり、前途多難です。

今の時代、民主主義はイギリスでもフランスでも日本でもうまく機能しているとは言えません。与党と野党が拮抗すると、ものごとがなかなか決まらない。一方、一部の統治者が決定を下す場合、上手くいっているときはこれほど効率的な政治制度はありません。しかし反対意見を認めないとか国民を常に監視するとかということになると、効率は悪くとも自由にモノが言えるわが国、日本の方がいいと思うのです。

しかし日本も崖っぷちです。長引く円安で輸入資材は高止まり、GDPはドイツに抜かれ世界4位、一人当たり国民所得も韓国に抜かれ世界22位、凋落ぶりも加速度がついてきました。少子高齢化も大きな原因の一つですが、それだけではないと思います。韓国は日本以上に少子化です。極端に言えば国民にハングリー精神がなくなってしまう、あくせく働いて少しでもいい暮らしがしたいという欲がなくなってしまう、海外留学する若者もどんどん減り内向きになってしまった、という事ではないでしょうか。このままでは日本はどんどん沈没していきます。せめて自分の企業だけは守りましょう。効率を上げ社内にイノベーションを起こしましょう。大それたことでなくてもいい、何か新しいことを始めましょう。国にも要望すべきことは要望していきますが、矢張りまずは自分たち自身が頑張ることが第一です。

とりとめのない年頭所感ではなはだ恐縮ですが、会員みなさまのご健康、ご隆盛を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。



INDEX

・ 令和7年度 畜産物価格等に関する要請について	2-3
・ 令和7年度 鶏卵の補てん基準価格及び安定基準価格の答申について	4
・ 配合飼料供給価格の動向について	4
・ 農業経営統計調査 農業経営収支（農林水産省）	5-6
・ 統計データ	7
・ 協会活動報告	8

令和7年度 畜産物価格等に関する要請について

日本養鶏協会は他の生産者団体と団結して、経営安定支援、高病原性鳥インフルエンザ対策、生産コストの高騰対策等について政治・行政に訴えてきたところです。また、令和6年12月13日に開催された「畜産・酪農対策委員会（築委員長）」（於：自民党本部）等においても、各生産者団体とともに団体要請を行い、現下の養鶏産業の厳しい現状を訴え、鶏卵生産者経営安定対策事業における基準価格の引き上げ、高病原性鳥インフルエンザ被災時に必要不可欠な埋却地確保やレンダリング・焼却施設整備に関する地域への支援等の一層の強化、持続可能な配合飼料価格安定制度の検討に関する要請書を提出しました。

令和6年12月13日

令和7年度 畜産物価格等に関する要請

一般社団法人 日本養鶏協会
会長 米山 大介

我が国の養鶏産業の振興につきましては、日頃より格別のご支援、ご指導を賜り、厚くお礼申し上げます。

鶏卵生産者は、本年度も鳥インフルエンザの発生が絶えないなか、高品質で安全な鶏卵を安定供給するため日々努力しております。

しかし、円安等により、コストの半分以上を占める飼料費や、人件費その他の経費が高騰し、生産者は厳しい経営を余儀なくされております。

こうした情勢を踏まえ、来年度の基準価格決定を含め畜産政策の策定に当たり、以下の点について特段のご配慮をお願いいたします。



1. 鶏卵生産者経営安定対策事業について

- (1) 鶏卵生産者の経営安定を確保し、成鶏更新空舎延長事業の効果を発揮出来るよう、十分な予算を確保すること。
- (2) 近年の生産コスト上昇に見合った、鶏卵の再生産が可能な水準となるよう、補てん基準価格を引き上げること。

2. 高病原性鳥インフルエンザの防疫措置の徹底に加え、被災農家にとって再建に必要不可欠な、埋却地の確保やレンダリング・焼却を行うための施設整備に関する地域への支援を一層強化すること。併せて手当金の一層の早期支給や、第9期家畜防疫互助事業の円滑かつ効果的な運用を図ること。

3. 持続可能な養鶏産業の推進のため、配合飼料価格安定制度について、借金運営から脱却し、安定した財源の裏付けがある等持続可能な制度になるよう検討すること。



令和7年度 鶏卵の補てん基準価格及び安定基準価格の答申について

農林水産省は、「食料・農業・農村政策審議会畜産部会」（令和6年12月25日開催）の答申を受け、鶏卵価格が低落した場合に発動基準となる、「鶏卵価格差補てん事業」の補てん基準価格及び「成鶏更新・空舎延長事業」の安定基準価格を決定しました。

今回の答申では、昨年度に引き続き、配合飼料価格の高騰等による物財費の上昇分が、算定式の生産比率に反映され、基準価格は相応の上げとなりました。

	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度
補てん基準価格	230 円/kg	222 円/kg	209 円/kg	181 円/kg
安定基準価格	207 円/kg	202 円/kg	190 円/kg	159 円/kg

配合飼料供給価格の動向について

令和7年1～3月期の配合飼料供給価格については、飼料情勢・外国為替情勢等を踏まえ、令和6年10～12月期に対し、全国全畜種総平均トン当たり約2,750円値上げすることになりました。

なお、改定額は、地域別・畜種別・銘柄別に異なります。

単位：円/平均トン

区分	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	年間
令和7年	2,750				
令和6年	2,800	-4,600	2,200	-4,850	-4,450
令和5年	-1,000	-2,000	-2,000	-2,700	-7,700
令和4年	2,900	4,350	11,400	据え置き	18,650
令和3年	3,900	5,500	4,700	-1,250	12,850

出典：全国農業協同組合連合会（JA全農）「配合飼料供給価格」

■ [令和7年1～3月期の配合飼料供給価格改定について | JA全農](https://www.zennoh.or.jp/press/release/2024/103124.html)

<https://www.zennoh.or.jp/press/release/2024/103124.html>



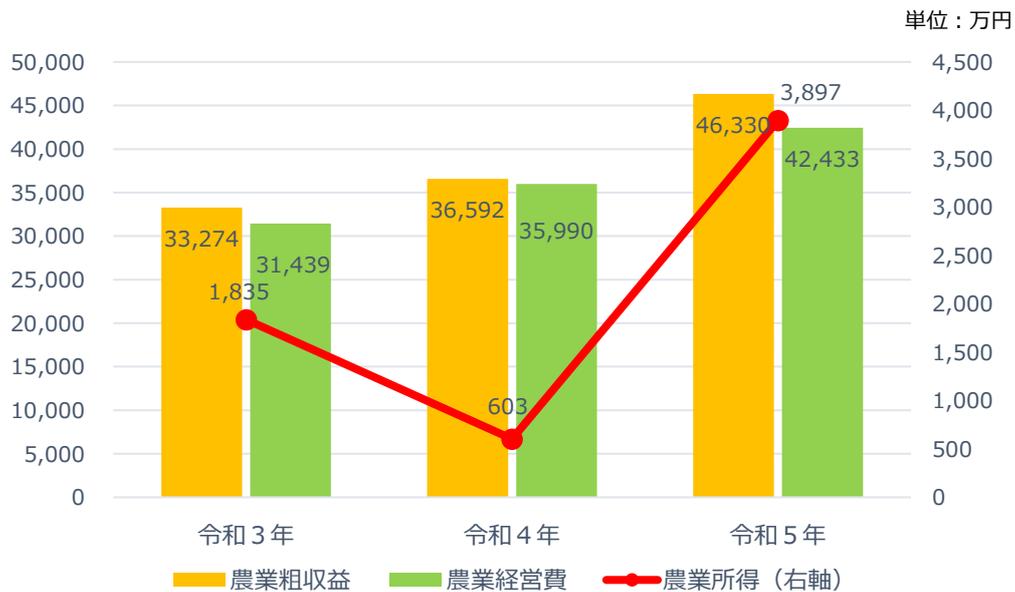
農業経営統計調査 農業経営収支（農林水産省）

令和6年12月24日、農林水産省から「農業経営統計調査 令和5年農業経営体の経営収支」が公表されました。採卵養鶏経営に係るデータをご紹介します。

1. 営農類型別の農業経営収支（全農業経営体）

令和5年における採卵養鶏経営（全国平均）における1経営体当たりの農業粗収益は、46,330万円、農業経営費は42,433万円でした。

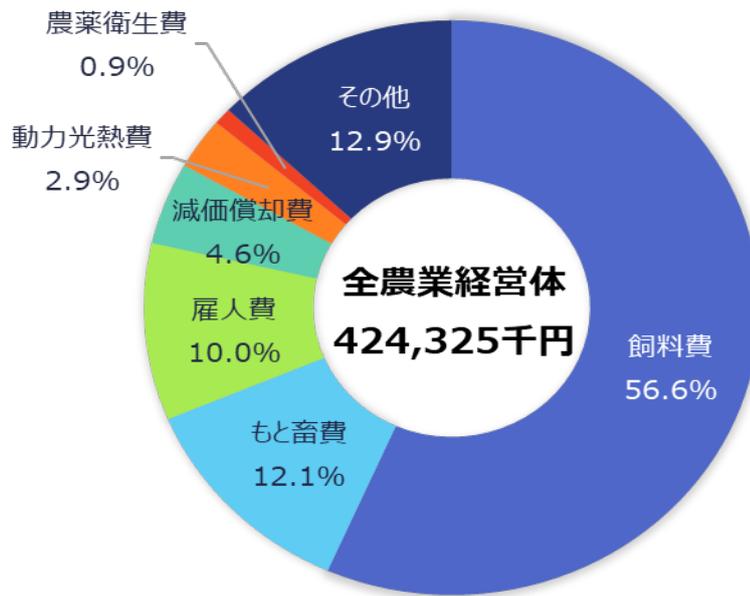
採卵養鶏経営の農業経営収支の推移（全農業経営体・全国・1経営体当たり）



2. 営農類型別の農業経営費の比較（全農業経営体）

全農業経営体1経営体当たりの農業経営費を営農類型別にみると、最も高かったのは飼料費で240,184千円、次いでもと畜費で51,157千円でした。

採卵養鶏経営の営農類型別の農業経営費率（全農業経営体）



■ 営農類型別経営統計（農林水産省）

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/noukei/einou/>

■ 令和5年 農業経営体の経営収支（農林水産省）

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/noukei/einou/pdf/einou_23.pdf

【お問い合わせ】

大臣官房統計部経営・構造統計課

担当者：営農類型別経営統計班

代表：03-3502-8111（内線 3636）

ダイヤルイン：03-6744-2043

担当者：農業組織経営統計班

代表：03-3502-8111（内線 3638）

ダイヤルイン：03-6744-2243



統計データ



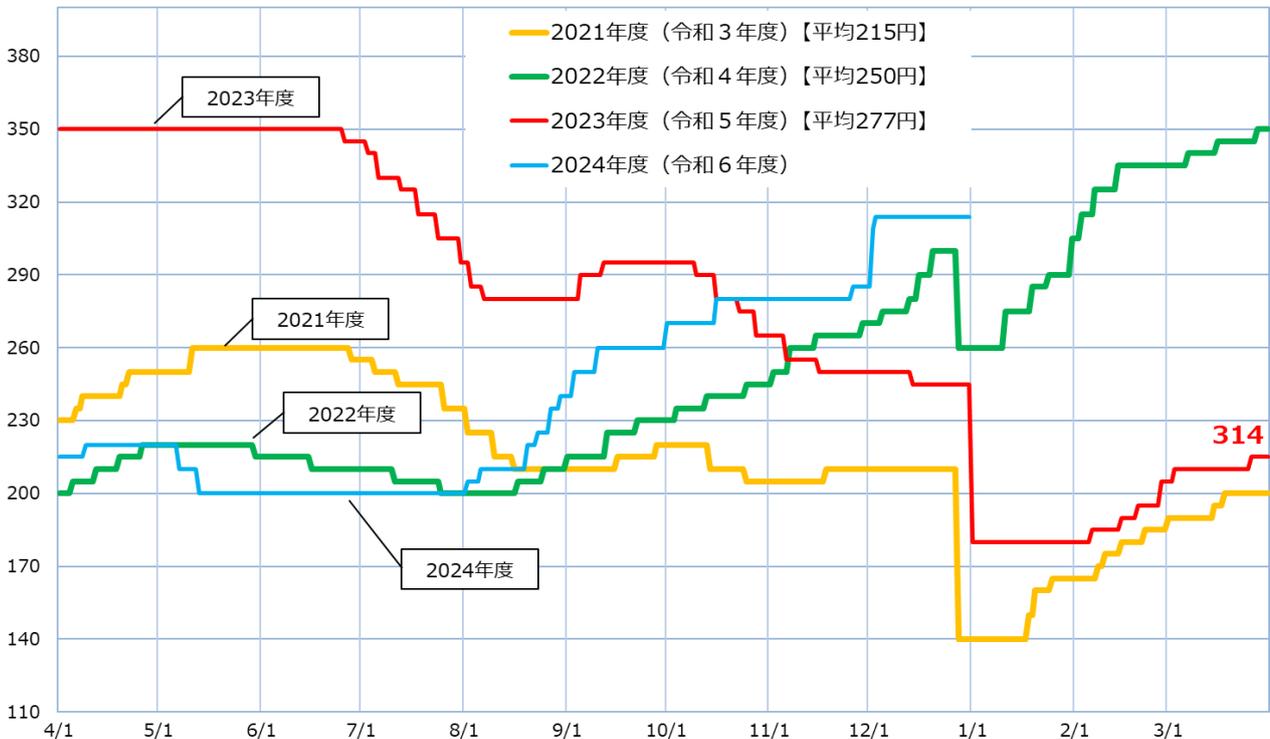
鶏卵相場動向 — 過去10年間の12月相場 東京全農Mサイズ 円/kg

	平均値	高値	安値
平成27年	255	273	249
平成28年	245	263	234
平成29年	234	253	224
平成30年	188	213	179
令和元年	227	230	219
令和2年	178	205	169
令和3年	210	230	204
令和4年	284	322	254
令和5年	247	274	239
令和6年	290	314	279
平均値	236	258	225

令和6年12月の鶏卵相場（東京全農Mサイズ）の高値314円は、過去10年の平均値258円を56円上回り、安値279円は、過去10年の平均値225円を54円上回っています。



鶏卵相場推移 2021年度～2024年度 東京全農Mサイズ 円/kg



鶏卵相場は11月末の285円から価格が上がり12月末では314円まで上がりました。



鶏卵関係主要計数 — 令和6年10月までの年間の主要計数推移

注：雛餌付羽数は全国推定値

	雛餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
			成 鶏 用		一人当たり		東京全農M	
	数量(千羽)	前年比	数量(千ト)	前年比★	数量(g)	前年比	前年(円/kg)	本年(円/kg)
5年 11月	8,671	98.9%	466	96.6%	876	96.2%	262	254
12月	9,584	105.6%	501	98.4%	951	100.8%	284	247
6年 1月	7,545	89.0%	456	102.3%	898	100.0%	280	180
2月	7,631	92.1%	453	106.9%	891	105.0%	327	190
3月	8,325	87.9%	464	97.4%	928	112.1%	343	211
4月	8,283	95.0%	478	108.2%	876	103.6%	350	219
5月	8,046	86.1%	477	102.2%	937	112.5%	350	204
6月	8,057	83.6%	439	97.9%	906	110.8%	349	200
7月	8,539	91.6%	450	105.4%	837	102.9%	320	200
8月	7,789	89.6%	434	99.2%	864	100.5%	282	217
9月	7,346	91.2%	426	98.9%	885	104.2%	292	256
10月	8,473	96.3%	484	105.0%	902	101.2%	283	275
1年間合計 平均(%)	98,289	92.2%	5,528	101.5%	10,751	104.2%	310(平均)	221(平均)

- ・雛餌付羽数は、8,473千羽（前年比96.3%）と前年比3.7%減となりました。
- ・配合飼料出荷量は、484千トン（前年比105.0%）と前年比5.0%増となりました。
- ・鶏卵の家計消費量は、902グラム（前年比101.2%）と前年比1.2%増となりました。
- ・鶏卵相場は、前年平均の8円安を示しました。
- ・配合飼料出荷量 前年比★は、生産量の前年比となります。

協会活動報告

鶏卵生産者経営安定対策事業 (<http://www.jpa.or.jp/stability/>)

① 価格差補填事業参加者の

契約数量（単位：t）

令和 3年度	1,840,695
令和 4年度	1,794,699
令和 5年度	1,731,712
令和 6年度	1,824,301

② 標準取引価格

令和6年12月 284.12円/kg

③ 令和6年度

鶏卵生産者経営安定対策事業の基準価格

補填基準価格 222円/kg

安定基準価格 202円/kg

日鶏協ニュース 発行者：一般社団法人 日本養鶏協会

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号 馬事畜産会館内(5階)

Tel：03-3297-5515 Fax：03-3297-5519 発行日：2025年1月9日

編集・発行責任者：石井 馨(info@jpa.or.jp)